57. 模擬原爆と原爆展

忘れっぽくなった。ラジオで聴いたのかテレビで見たのか、わからなくなってしまった。

模擬原爆というのを迂闊にもはじめて知った。アメリカは原爆投下の前に模擬原爆を投下して練習をしていたという。驚きだ。それも日本各地で投下し犠牲者も出たという。

改めて広島平和記念資料館の HP で調べると、原爆の模擬爆弾の投下場所の地図があり、「昭和 20 年 7 月 20 日から 8 月 14 日までの間に 49 発が投下され、1600 人以上の死傷者が出た」とある。解説には、「原爆の実戦での使用に備えて、原爆投下に専念する部隊が新たにつくられ、アメリカ国内の砂漠などでくり返し投下訓練を行なった。1945 年(昭和 20 年)に部隊はマリアナ諸島のテニアン島へ移動し、日本の地理に慣れ、目標へ確実に投下するため日本の都市に原爆の模擬爆弾(通称「パンプキン」)を投下した」ともある。

投下場所は福島・日立・東京中央区・長岡・富山・浜松・大垣・四日市・大津・徳島・宇部など 30 ヶ所にのぼる。

我が家から比較的近い西東京市での被弾は次のようなものであった。全く知らなかった。

「7 月 29 日に模擬原爆が投下され、ジャガイモ畑で収穫中だった女性 3 人が亡くなり 11 人が重軽傷を負った。米軍の爆撃任務報告書では 29 日は第 1 目標の福島県・郡山を目指して B29 が 3 機、南方のテニアン島基地を出撃した。雲があって郡山に投下できなかった 1 機が東京方面に進路を変え、軍用機などを製造していた武蔵野市の中島飛行機武蔵製作所を狙った。しかし目標を外れ、600m ほど離れたじゃがいも畑に着弾した。この B29 は、8 月 9 日に長崎に原爆を投下した爆撃機だったという」(「ひばりタイムス」より)。

8 月 10 日、飯能市立博物館で開催中の「ヒロシマ・ナガサキ原爆資料展」を一人で見学した。飯能市が平成 31 年に平和都市宣言を制定した記念に開催したという。広い展示室は開館一番で行ったためか私一人で独占していたが、途中から一人中年男性が来られた。「密」とは無縁の空間だった。

広島平和記念資料館・長崎原爆資料館が収蔵している被爆実物資料やレプリカ、被爆者が描いた絵画、それに多くの解説パネルが展示されていて、地方の博物館が開くにしては質・量とも充実していて、中味の濃い展示会であった。案内にあるように「国内において広島・長崎の実物資料が一堂に会して展示されることは少なく、とても貴重な機会」であった。

展示を見て知ったことや、展示内容などを少し記したい。

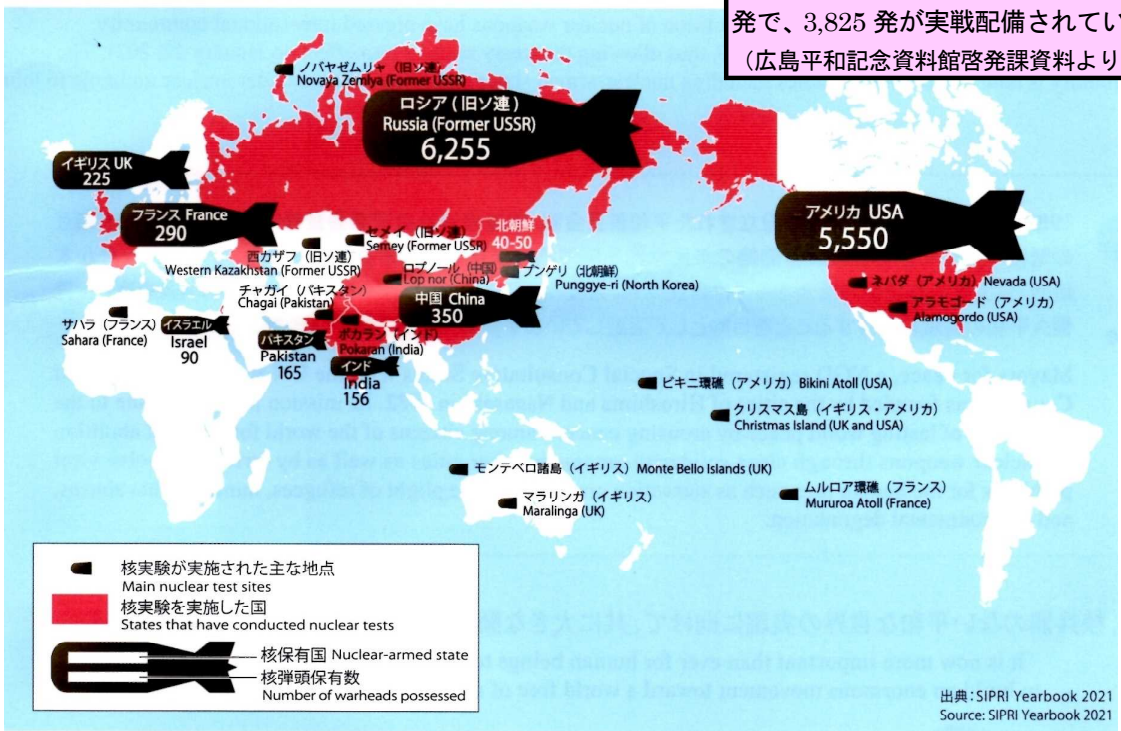
- 「投下目標の対象に 17 地域が選ばれ、さらに<u>爆風で効果的に損害を与えられる条件</u>で候補地が絞られ、<u>目標都市の空襲が（意識的に）禁止された</u>」
- 「原爆投下により戦争を終結できれば戦後のソ連の影響力の広がりを避けられ、また<u>膨大な経費を使った原爆開発を国内向けに正当化できる</u>」
- 「8 月 9 日テニアン島を出発した爆撃機は第一目標の小倉上空に至も視界が悪く、第二目標の長崎に変更、<u>長崎上空も雲に覆われていたが雲の切れ間から市街が見えたため投下された</u>」
- 熱線や爆風・放射線による悲惨な幾つもの写真や絵画。特に印象に残ったのは着物の柄が皮膚に焼きついた女性の写真だ。
- 女学生が着ていた制服、溶けたガラス瓶、壊れた時計･･･。熱線で表面がブツブツの泡状になった屋根瓦（被爆瓦）も。爆心地周辺の地表面は 3,000 ～ 4,000 度にも達したという。

模擬原爆にしても、投下目標の選定にしても、実際の投下にしても、如何に計画的に行われたかを知った。悲惨な写真や被爆実物資料を見て、改めて原爆の恐ろしさに想いを馳せることができた。それにしても現状の核弾頭数の大きな数字に言葉を失う。

私は、日本人は一生に一度は、広島・長崎・沖縄の三ヶ所は訪れるべきだと思いそのようにしてきたが、既に大分昔のことになってしまった。近くの博物館で再び原爆資料展を見ることができたのは大変感慨深いことだった。（2021 年 8 月 13 日）

左：展示会のパンフレット

被爆瓦の表面

核弾頭の保有数と世界の核実験場

９ヵ国が保有する核弾頭は約 13,080 発で、3,825 発が実戦配備されている。
（広島平和記念資料館啓発課資料より）